Tofuku-ji Temple Jorakuan

東福寺常楽庵

客殿（普門院）ほか２棟

京都市東山区

塔司寮（書院）	江戸時代	文政６年 (1823)
裏門	江戸時代	前期
客殿（普門院）	江戸時代	文政９年 (1826)

事業期間：平成 30 年９月～令和７年 12 月（予定）

東福寺は臨済宗東福寺派の大本山で、開基を摂政九条道家、開山を円爾として鎌倉時代に創建されました。その後、京都五山に列する禅宗寺院に発展し、現在も中世以来の大規模な建物群を境内に残しています。

常楽庵は円爾を祀る開山塔院で、東福寺本山伽藍の北方に位置しています。一条実経が造営した円爾の常住庵に始まり、円爾没後にその塔所となったと伝えられます。

現在の伽藍のほとんどは文政２年（１８１９）焼失後の再建によるもので、庭園を囲むように配置される７棟の建造物が重要文化財に指定されています。

また、昭和になって東福僧堂が常楽庵へ移転してからは、雲水の修行道場としても活用されています。

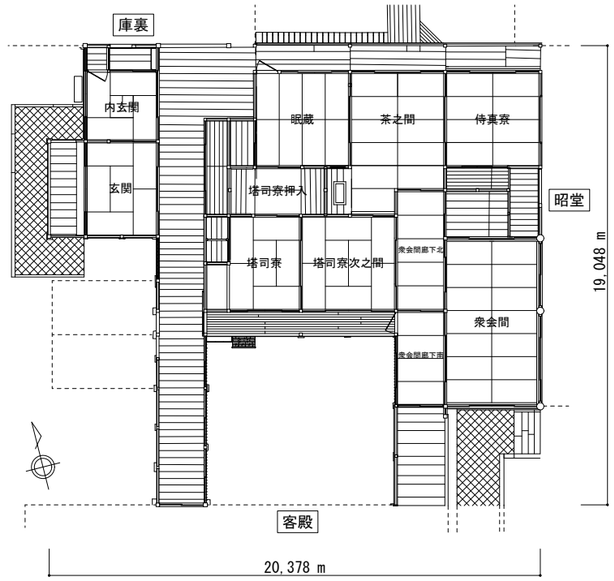
塔司寮（書院）　修理前　外観（西より）

塔司寮（書院）　重文《修理中》

文政６年（１８２３）に建立された書院建築で、常楽庵を管理する塔司の居所としての機能のほか、玄関や、法要の控室といったの機能を併せ持ちます。

建物は、西に玄関を設け、北に塔司の寝室となる「眠蔵」などの私的空間、南に法要の控室となる「衆会間」などの公的空間を配置する構成です。周囲は、昭堂、客殿（普門院）、庫裏それぞれと接続し、屋根は複雑な形状となっています。

間取りは建築前に作成された計画図と異なるところがあり、今回の解体に伴う調査からも、建築中に計画変更を行ったことがわかります。



塔司寮（書院）　平面図　（修理前）

昭和33年には、屋根の全面葺き替えの他、内玄関等の改造が施されました。

修理の内容

屋根はところどころで雨漏りが生じ、木部では蟻害や歪みを生じていました。このため、桟瓦葺屋根の全面葺き替え、蟻害を受けた床組部材の取り替え、軸部の不陸調整と建て起こし、天井の吊り直し、耐震補強などを行っています。

塔司寮（書院）　屋根解体中の状況

塔司寮（書院）　修理前　衆会間

塔司寮（書院）　修理前　眠蔵

裏門　重文《修理中》

塔司寮（書院）の西側に建ちます。江戸後期の建立とされていましたが、今回の調査により17世紀に遡り得る建物であることがわかり、文政火災で延焼を免れたものと考えられます。

本瓦葺屋根の緩みや木部の蟻害が深刻であったため、解体修理を行っています。部材は、すべて取り外して補修を施した上、現在は保存小屋に格納しています。修理事業の最後に組み立てを行います

客殿（普門院）　重文《修理完了》

桁行21・2メートル、梁間17・4メートルの規模を持つ大型客殿です。平面は仏間の前後左右に８室を設け、周囲に鞘之間と縁を廻したもので、前列が儀礼の空間、後列が接遇の空間として計画されたようです。

今回の工事では、桟瓦葺の屋根の全面葺き替え、蟻害を受けた床組部材の取り替え、軸部の不陸調整と建て起こし、天井の吊り直し、耐震補強などを行いました。工事は令和５年３月に完了しました。